

新年賀詞交歓会を開催

2018年1月17日

2018年賀詞交歓会は、東京（1月5日）と大阪（1月11日）で、関係官庁・団体関係者多数のご出席をいただき、盛大に催されました。

東京は、当会伊藤会長の年頭挨拶で、銅電線需要については、建設向け需要の立ち上がり時期の遅れにより692千トンに微修正したものの、光ファイバは欧米や中国などの需要が堅調で、過去最高であった2016年と同等レベル以上の出荷量を見込む。2018年は建設向け需要が回復し、東京オリンピックの関連需要も出てくるため、電線需要が大きく伸びることを期待したい。4つの重点活動テーマ『商慣習の改善』については、経済産業省がとりまとめた「金属産業取引適正化ガイドライン」、経済産業省 製造産業局長、国土交通省 土地・建設産業局長連名の「電線の取引条件改善に向けた取り組みについて」とする要請文の発出など、関係諸官庁の多大なるバックアップもいただき、一步一步ではあるものの具体的な改善が進むようになってきており、地道な活動を根気よく粘り強く進めフォローアップ活動を充実させる。『環境問題への対応』は最適導体サイズ設計の普及、低炭素社会実行計画の削減目標を現状に合わせ一歩踏み込んだ数値への改善を進める。『中堅中小電線企業の経営基盤強化支援』は、中小会員への訪問活動や中堅企業部会などを通し、会員の生の声を聞き、中小会員の活動に資する諸施策の紹介、人材育成・技能継承を目的とした講習会、技能研修の開催。『グローバル化への対応』については、海外出荷統計を継続し、国内外に対しての発信と、「導体サイズ適正化」、「超電導電力ケーブル試験方法」のIEC規格化をめざす。また、今年 は設立70周年を迎える節目の年であり、明治150年にもあたる。近代日本の発展に貢献した電線産業の貢献度を広く訴え、認知度の向上を目指した活動を通じ電線産業の存在感を高め、会員の経営基盤強化に繋げていく。最後にCSV、自社の利益追求を社会的な価値向上に積極的に結びつけることができれば皆様の事業は一層発展すると述べられました。

続いて、来賓代表挨拶として、経済産業省 製造産業局長の多田 明弘様より、明るい兆しが見えてきている時こそ将来を見据えた次の一手に取り組む年にしていただきたい。生産性革命、人づくり革命のなかで新しい将来像としてコネクテッド・インダストリーを掲げているが、将来の別次元の課題を克服する上で、もっと協調すべき分野が無いか検討をしていただきたい、課題克服のための予算、税制面でサポートを進める。将来が見えないからこそ挑戦、変革の年にしていただきたいとご挨拶をいただきました。

大阪は、伊藤会長の年頭挨拶の後、経済産業省 近畿経済産業局長の森 清様より、SDGs（持続可能な開発目標）では国内で初となる関西SDGsプラットフォームを設立、事業継承および設備投資予算の拡充をはかっていること、大阪万博の実現に向けた取り組みについてご紹介とご挨拶をいただきました。



伊藤会長



多田製造産業局長



森近畿経済産業局長

東京会場 共催6団体

一般社団法人日本電線工業会
電線工業経営者連盟
東日本電線工業協同組合
東日本電線工業健康保険組合
一般社団法人電線総合技術センター
関東電線販売業協同組合
(出席者 約400名)

大阪会場 共催5団体

一般社団法人日本電線工業会
電線工業経営者連盟
電線工業健康保険組合
西日本電線工業協同組合
一般社団法人電線総合技術センター
(出席者 約250名)